

## 【樹木・草花の部屋】

### シャクナゲ（ツツジ科ツツジ属 Rhododendron hybrids）

**和名**；シャクナゲ（石楠花、石南花）  
ツツジ目 常緑広葉樹・低木

**別名**；シャクナシ、シャクナンゲ

**原産地**；主にアジアの温帯～熱帯

**花言葉**；威厳 荘厳 警戒心をもて

**花の色**；赤、桃、橙、黄、白、紫



⇒ 写真－1 シャクナゲ

撮影日：2009年4月24日

撮影場所：奈良県室生市

室生寺にて

撮影者：Mさん

室生寺の境内に咲いていました。

写真－2 シャクナゲの花 ⇒

撮影日：2009年5月6日

撮影場所：奈良県大和郡山市

M邸にて

撮影者：Mさん

ヤクシマシャクナゲで4年ほど前に訪れた島根県・大根島の由志園で購入。現在は知人に譲渡。

シャクナゲの特徴は枝頂部にツツジに似た花をぐるっと球状につける。葉は輪生で、光沢があり、丸みを帯びて細長。葉にはロードトキシンが含まれケイレン毒となるので有毒植物として扱われます。街路樹などに用いられ、福島県や滋賀県では、県花とされています。



## 【樹木・草花の部屋】

<ちょっと一言>

シャクナゲの種類は非常に多く、その分類も、結構ややこしいようです。シャクナゲはツツジ科のツツジ属に含まれ、日本には同属の仲間が40余自生しているそうです。

- ① ヒカゲツツジ亜属
- ② ゲンカイツツジ亜属
- ③ シャクナゲ亜属
- ④ レンゲツツジ亜属
- ⑤ オンツツジ亜属(代)
- ⑥ ヤマツツジ亜属

の6つの亜属に分けられ、古くから日本でシャクナゲと言えば③のシャクナゲ亜属に属するハクサンシャクナゲ、ヤクシマシャクナゲなどを総称してシャクナゲと呼び、その他の亜属はサツキまたはツツジ類と呼んできたそうです。が、欧米の園芸界では、①～③をまとめて「シャクナゲ類」としているそうです。最近、日本の園芸界でも、欧米の分け方を取り入れつつあるそうです。

郡部では自生のシャクナゲを山から掘り出し、鉢植えなどで楽しまれている方が多いようです。世話は大変なようですが・・・